

審判講習会 参加報告書

平成28年 8月26日

報告者 二宮 光司

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

<b>講習会名 (大会名)</b>	平成28年度全国中学校体育大会 第46回全国中学校バスケットボール大会
<b>参加者 (報告者)</b>	中井 将基 二宮 光司(報告者) (所属カテゴリー) 中体連
<b>期 日</b>	平成28年 8月 22日(月) から 平成28年 8月25日(木)
<b>会 場</b>	[男子] 福井市体育館・トリムパークかなづ [女子] 勝山市体育館・大野市エキサイト広場総合体育施設
<b>講 師</b>	蒲健一氏、玉木彰治氏、御手洗亮氏、田邊真由美氏、福岡敏徳氏、星野由紀氏
<b>参加者</b>	中体連所属A級審判員、ブロック推薦B級審判員、地元審判員等 100名
<b>報告① レ 講義 □ 実技講習 □ ゲーム (該当に レ)</b>	<p>講 義 講師 玉木彰治氏 テーマ『Control The Game』</p> <p>A級の研修会であったが、B級も聴講できる機会をいただいたので参加した。今回のテーマは「Control」であった。審判が想定している範囲内でゲームが進む(アンダーコントロール)をめざし、何を意識してゲームを運営していくのか話していただいた。</p> <p>○ゲームをアンダーコントロールとするために</p> <p>①メンタルセット・アクティブマインドセット</p> <p>トレイル・リードがそれぞれのエリアで、「どのようなプレーが起こるのか」「そのプレーはどのように展開していくのか」「どのようなトラブルが起こるのか」ということを予測していくこと。セルフトークキングをすることで思考を止めずに準備をし続ける。</p> <p>②クライテリア(判定基準)</p> <p>「判定基準」という漠然としたものではなく、一つ一つのプレーに対して、明確な判定基準を持ち、判定していくこと。</p> <p>例)手の使い方・・・センターに添える手、ドライブに対する手など ブロックチャージ・・・DFの状態の確認 アンスポーツマンライクファール・・・4つの場面のどれに該当するのかを明確に</p> <p>③コートプレゼンス</p> <p>判定の強さ、表現の強さなど強い姿でコートに立つ。レフリーもアスリートのように動き、ゲームを引き締める。</p> <p>④オヴィアスプレー(明らかなプレー)</p> <p>明らかな現象を必ず判定する。絶対に逃さない。</p> <p>⑤プライマリーカバレッジ(担当するプレー)</p> <p>自分の担当するエリア、責任プレーに対して責任を持って判定していく。次に起こることを予測して、プレーの途中がブラインドになることがあっても、最終局面のスペースをとらえられるような動きの工夫をしていく。</p>

	<p>⑥レフェリー・ザ・ディフェンス</p> <p>ボール中心から、DFへ目を当てる。</p> <p>以上の①～⑥について講義していただいた。また、今大会はマンツーマンディフェンスの推進により、コミッショナーが各ゲームにつきテクニカルファールになるかどうかの判定をしていく初の全国大会なのでそのあたりの処置や気遣いもするように指導がありました。</p> <p>その後、高校生を使ったモデルゲームが行われた。(A級のみ割当)その中で、講師のコメントで多かったものが、「動きながら判定しない」「よいアングルをとらえる細かいステップ」であった。全国大会でも基本的なことへの意識が大切であることが改めて感じた講習会であった。</p>
<p>報告②</p> <p>□ 講義</p> <p>□ 実技講習</p> <p>レ ゲーム</p> <p>(該当に レ)</p>	<p>□ゲーム 女子予選リーグ 東海1位 藤浪中(愛知) 対 近畿2位 京都精華(京都)</p> <p>主審 中村浩二氏(青森A級) 副審 二宮光司(報告者)</p> <p>コート主任 田邊真由美氏(本部S級)</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <p>このリーグは3校とも強豪校が集まっており、初戦で藤浪は1敗、京都精華は1勝している。このゲームを勝たないと決勝トーナメントに進めない藤浪がアグレッシブにプレーしてくることをカンファレンスで話し、手の使い方やコンタクトに早く線引きをして、ゲームの入り大切にしていこう準備をして試合に臨んだ。</p> <p>試合後のミーティングでは、2点お話をいただいた。1点目はゲームの入りはカンファレンス通り、大切にしていって思い切った判定もされていたが、各ピリオドの終わりにきわどいプレー(タイトなディフェンス・ショットの成立)が多く、そこで「審判が見ているぞ!!」という印象が少し薄い状態がお互いにあった。何かあったわけでは無いと思うがしっかりと確認しきって終わらせてほしい。2点目は、選手が倒れるケースがいくつかあったが、コンタクトにポイントを置いていたのであれば、早くブロッキングの判定をしてDFを踏ん張らせたり、チャージを判定してOFに止まらせたりさせなければならない。きわどいケースでもノーコールが続くと歯止めがきかなくなり怪我を招く恐れがあるとお話いただいた。</p>
<p>所感</p>	<p>今大会では、今まで耳にしたことのない言葉も出てきたが、意味するものや中身は、普段自分自身がぼんやりとしか考えていなかったものをはっきりとさせるものが多く勉強になる大会でした。よく、「判定基準」や「責任エリア」とか漠然とした言葉で表現していたものを、明確にしていくことで、確固たる判定基準を作ることができるのではないかと感じました。しかし、それには日々のレフリングの取り組みだけでなく、レベルの高い試合を観戦することなど感性を磨き上げていくことも意識して取り組まなければならないと感じました。</p> <p>いよいよ国体まで1年となり、何をどのように改善して取り組んでいくのかをしっかりと精選していかなければならないと感じました。また、今大会で学んだことを中体連だけでなく、県内審判員で共有し、みんなでレベルアップを図っていけるようにしたいと思います。</p> <p>今回、このような機会をいただいた皆様に感謝し、報告とさせていただきます。</p>

※ 原文のまま、ホームページ等に掲載されます。

※ 用紙が足りない場合は、各自追加してください。